

5 ほ場整備を契機に、地域を考えよう！

- 4 (2) で示したとおり、県内の農業従事者の高齢化は進展しています。10年後、20年後に誰が地域の農業を担っていくのでしょうか。
 - ・ 私たちの集落の人口構成は？
(現在 平均年齢○歳 このままだと 平均年齢○+10、20歳?)
 - ・ 農業の担い手は？
(高齢化、頼む人がいない、子供を頼りにできない・・・)
 - ・ 土地が荒れる？
(通行が不便、鳥獣害が多くなる、日当たりが悪くなる・・・)

そこで、ほ場整備を契機に考えてみてはどうでしょうか。

1 地域の担い手を決め農作業の受委託、農地の貸し借りをする

ほ場整備によってほ場条件が良くなり、農地が集積され、さらに境界や公図が明確になることで、農作業の受委託、農地の貸し借りがしやすくなります。また、これにより、農地を荒らすことなく守っていきます。

2 集落で営農を始める

ほ場を整備することにより、作業時間が短縮され水管理等が容易になったことで、年齢、作業能力等に応じた役割分担により、集落で農地を守るとともに、老・若・男・女、より多くの人たちが生きがいを持って参加し活躍できるしくみを作ります。

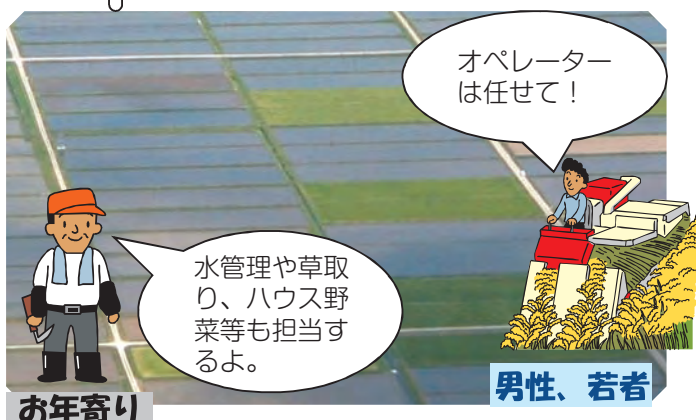
1 なぜ、農地の貸し借りがしやすくなるのでしょうか。

ほ場整備前と比べると…

- ・ ほ場の条件が良くなります。
(水管理が楽に、道路幅が広くなり大型機械が通れる、水路が深くなり排水が良くなる、お米以外のものも作れる・・・)
- ・ 土地の境界が明確になります。
- ・ 農地が集積されます。

もちろん、今まで通り自分で農作業を行っても以前より効率的になりますか…

2 集落営農を始めてみる！



ハウス野菜に直売所、農産物加工にチャレンジするわ！

